

長崎大学
核兵器廃絶研究センター一年報
2022

Research Center for Nuclear Weapons Abolition, Nagasaki University
(RECNA)

Annual Report 2022

長崎大学

核兵器廃絶研究センター一年報 2022

目次

はじめに

- ・不透明感が強まる中で [1](#)

RECNA 活動報告 (2022 年 4 月 1 日~2023 年 3 月 31 日) [2](#)

専任教員活動報告

- ・吉田 文彦 教授 (センター長) [10](#)
- ・鈴木 達治郎 教授 (副センター長) [11](#)
- ・広瀬 訓 教授 (副センター長) [12](#)
- ・中村 桂子 准教授 [13](#)

出版物 (リンク集) [15](#)

- ・J-PAND
- ・RECNA ニュースレター
- ・RECNA Newsletter
- ・RECNA ポリシーペーパー
- ・RECNA 叢書
- ・政策提言
- ・Capsule

活動報告 (リンク集) [15](#)

- ・令和 4 年度 核兵器廃絶市民講座「核兵器のない世界を目指して」
- ・「核なき未来」オピニオン募集
- ・ピースキャリアトーク
- ・北東アジアの平和と安全保障に関する専門家パネル
- ・「被爆の実相の伝承」のオンライン化・デジタル化事業
- ・PCU-NC および RECNA 創立 10 周年記念特別講演会
- ・RECNA ラウンドテーブル
- ・RECNA 研究会
- ・運営委員会次第

教育 (リンク集) [15](#)

- ・大学院 多文化社会学研究科
- ・教養教育

ウェブサイト（リンク集）	<u>16</u>
・市民データベース	
・世界の核弾頭・核物質データ	
・レクナの目	
ナガサキ・ユース代表団（リンク集）	<u>16</u>
報道記事（見出し一覧）	<u>17</u>
あとがき	<u>25</u>

<はじめに>

不透明感が強まる中で [↑](#)

吉田文彦 (RECNA センター長)

2022 年度。世界の風景はまだら模様でした。パンデミック化した COVID19 の悪影響ようやくがやわらぎ、海外との交流が徐々に再開しました。RECNA の研究教育面でも新しい景色が見えてきました。その一方で、ロシアによるウクライナ侵略で国際的な安全保障環境の悪化が続き、核軍縮の今後を考えると一段と不透明感が強まった 1 年でもありました。

こうした中で RECNA は、ノーチラス研究所、アジア太平洋リーダーシップネットワーク (APLN) との共同事業「北東アジアにおける核使用リスクの削減 (NU-NEA)」(2 年目) を進め、研究報告書「北東アジアにおける核兵器使用の人的影響：核リスク削減についての示唆」を発表しました。ウクライナ危機で核使用リスクの高まりが懸念されるタイミングで、限定的な核戦争でも大きな被害が出ることをシミュレーションで示しました。

核兵器の問題はグローバルなものです。長崎大学刊行、RECNA 編集の「Journal for Peace and Nuclear Disarmament」は中東の非大量破壊兵器地帯 (第 5 巻 1 号) や中国・インド・パキスタンの「核の三角関係」(第 5 巻 2 号) を特集しました。厳しい安全保障環境ではありますが、「変化」への期待も込めながら、「核軍縮の再生：広島 G7 サミットに向けて」と題した「レクナ・ポリシーペーパー」をまとめました。

2022 年度は RECNA 創立 10 周年にあたり、同じく 10 周年を迎えた核兵器廃絶長崎連絡協議会 (PCU-NC、県・市・長崎大学で構成) と協力して、記念事業を実施しました。駐日ジャマイカ大使のショーナ・ケイ・リチャーズ大使と芥川賞作家平野啓一郎氏をそれぞれ長崎に招いて特別講演会を開催するなど多彩な事業を開催し、今後の RECNA、PCU-NC のあり方を考える機会としました。

教育面では多文化社会学部・同研究科で学生・院生を指導し、全学モジュールでも多くの学生と平和や核兵器に関する問題を学び合いました。社会貢献では PCU-NC 主催の市民講座の企画・運営、ナガサキ・ユース代表団事業での人材育成に尽力しました。

人事面では広瀬訓先生が、活水女子大学への転任のため、2022 年度末をもって RECNA 教授を退任されました。後任は河合公明先生で、すでに着任されています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

<RECNA 活動報告>

RECNA 活動報告（2022年4月1日～2023年3月31日）[↑](#)

§1 活動内容の報告

概要：2022年度は、パンデミック化したCOVID19の悪影響がやわらぎ始め、海外との交流が徐々に再開してRECNAの研究教育にもプラス面が表れてきた1年であった。その一方で、ロシアによるウクライナ侵略で国際的な安全保障環境の悪化が続き、核軍縮の今後を考えると一段と不透明感が強まったと言わざるを得ない。逆説的ではあるが、こうした事態に陥ったことでRECNAからの発信、長崎大学での研究教育が注目される面もあるだろう。それを実感した1年でもあった。

こうした中、2021年度の「北東アジアの平和と安全保障に関するパネル（PSNA）」（主催はRECNA）関連の研究事業として、「北東アジアにおける核使用リスクの削減（NU-NEA）」プロジェクト（2021-2023年度）の2年目の研究に取り組み、2023年3月に最終報告書を発表した。実際に核兵器が使用された場合の物理的被害（死傷者数、放射線の影響など）を定量的に評価して、核リスク削減に向けた政策的示唆を得た。

核軍縮関連では、原爆後障害医療研究所と共同研究を実施し、核兵器禁止条約に盛り込まれた核実験による放射線被害者への救済の実効性を高めるための政策提言をまとめ、記者会見で発表した。科研費研究基盤（B）の助成に基づく研究プロジェクト「安全保障を損なわない核軍縮」（2021-2023年度）は2年目を迎え、成果物を「早稲田選書」（早稲田大学出版部）で刊行すべく、研究を深めた。国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館からの受託研究事業（厚生労働省の予算枠、2021年度～2023年度）の2年目の事業を実施した。主な活動として、①米軍撮影の航空写真を用いた被爆前後の長崎、広島の3Dマップ、②被爆前の長崎、広島の写真を活用した教材用の動画やスライドを制作している。3Dマップ作成は、全炳徳・情報データ科学部教授（RECNA兼務教員）を中心に進めている。

教育面では西田充教授が2022年4月に多文化社会学部・多文化社会学研究科の教授（RECNA兼任教授）に着任し、学生の指導を始めた。多文化社会学研究科では2022年度、国際基督教大学（ICU）との包括連携協定に基づいたICU大学院と多文化社会学研究科との単位互換制度において、双方の教員が担当する科目を互換対象として実施した。

2022年度はRECNA創立10周年にあたり、同じく10周年を迎えた核兵器廃絶長崎連絡協議会（PCU-NC）と協力して、記念事業を実施した。ジャマイカ大使のショーナ・ケイ・リチャーズ大使と芥川賞作家平野啓一郎氏をそれぞれ長崎に招いて特別講演会を開催するなど多彩な事業を展開して、今後のRECNA、PCU-NCのあり方を考える機会とした。さて、センター規則第3条に基づくRECNAのミッションは、核兵器廃絶に係る調査・研究、啓発・教育、発信・出版などである。以下で、標記期間の活動の全般をより詳しく報告する。（吉田）

（1）調査・研究

①ノーチラス研究所、アジア太平洋核軍縮・不拡散リーダーシップネットワーク（APLN）

と共催で昨年度より始めた「[北東アジアにおける核使用リスク削減 \(NU-NEA\)](#)」プロジェクト(2021年度～2023年度)の2年目を終えた。2年目の今年度は、2023年3月に報告書「北東アジアにおける核使用の影響評価」を[英文](#)([日](#)・[韓](#)・[中国語](#)・[ロシア語](#)は要旨のみ)で発表した。本年度は、昨年度の報告書で公表した「十分に起こりうる核兵器使用の25の事例」から5つの事例について、実際に核兵器が使用された場合の物理的被害(死傷者数、放射線の影響など)を定量的に評価して、政策的示唆を示した。報告書の要旨と特別論文は、後述する英文学術誌 *Journal for Peace and Nuclear Disarmament (J-PAND)* (「平和と核軍縮」)に掲載される予定である。(鈴木)

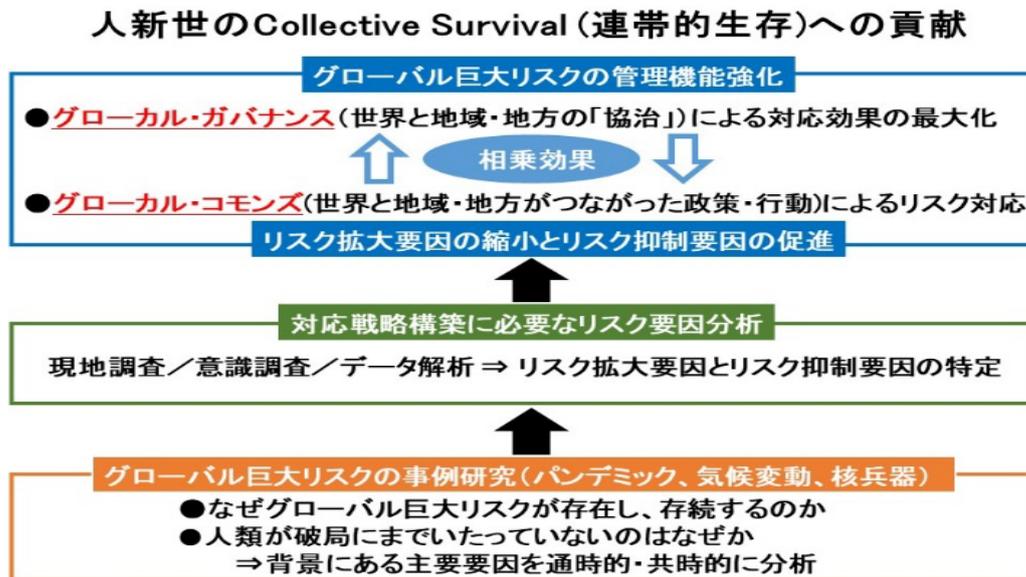
②「北東アジアにおける平和と安全保障に関するパネル(PSNA)は、メンバーを一新して今年度より第2期を開始し、オンラインで4回の非公式会合を開催。1月12日(木)～13日(金)の2日間にわたりオンライン・ワークショップを開催。NU-NEAプロジェクト成果の発表やウクライナ侵攻の北東アジアへの影響などを議論したほか、第2期としては「北東アジア非核兵器地帯」に関する英文学術書の発刊を目標とすることが承認された。(鈴木)

③科研費研究基盤(B)に採択された研究プロジェクト「[安全保障を損なわない核軍縮](#)」(研究代表者:吉田、2021-2023年度)は2年目の研究活動となった。核軍縮に関して理想主義と現実主義が「分断」状態にある中、二項対立を乗り越える形で軌道修正していくための最適解の提示が研究目的である。2022年度は核抑止分析グループ、国際法分析グループ、核不拡散分析グループに分かれて核兵器の属性を研究し、核兵器に対する「総合的政策評価」を示す準備をした。本研究の成果物を早稲田大学出版部が関心を示し、「早稲田選書」として刊行することが内定した。科研費の出版助成も申請予定である。(吉田)

④国際基督教大学(ICU)との包括連携協定の下、「軍縮教育」(特に核軍縮・不拡散教育)をテーマとする研究プロジェクトを継続している。今年度は科研費・基盤研究(B)「日韓共同による軍縮・平和教育プログラムの作成・実践・評価:教育学的アプローチ」(研究代表:笹尾敏明 ICU教授、2021-2023年度)の最終年度であり、2023年3月にまとめとなるシンポジウムをICUで開催予定である。2023年2月には、プロジェクトの協力者である韓信大学平和と公共性センターの李起豪教授を招いた RECNA 研究会を開催した。2022年7月から8月にかけては、協定に基づくサービス・ラーニングの一環としてICU生を長崎大学に受け入れ、教材作成に向けたプログラムを実施した。その実践報告は、年度内に発刊されるICUサービス・ラーニングモノグラフ(論考集)に掲載の予定である。(中村)

⑤4月6日に核兵器禁止条約(TPNW)の第一回締約国会議へ向けて、原爆後障害医療研究所と共同で「[政策提言 核兵器禁止条約を通じた放射線被害者支援に向けて](#)」の記者発表を行い、関係者への配布を行った。また、その内容の要約版をワーキングペーパー「[Policy Proposal for providing support to radiation victims in accordance with the Treaty on the Prohibition of Nuclear Weapons \(TPNW\)](#)」として6月にウィーンで開催された締約国会議へ提出した。(広瀬)

⑥長崎大学 STAR 創出プログラムに採択された「[人新世における Collective Survival \(連帯的生存\) に向けてーグローバル巨大リスク管理に資するグローバル・ガバナンス論の構築](#)」(総括責任者：吉田、研究代表者：コンペル、2021-2023 年度) は 2 年目の研究を行った。気候変動や核戦争、パンデミックといったグローバル巨大リスクについては、地球を従属変数にした国家中心の政治経済観、人間中心の進歩観等が主たる「負の Driving Force」となり、プラネタリーバウンダリーを意識した共生観、行動主体の多様化等が「正の Driving Force」となるとの示唆を得た。これを踏まえて、何がリスク大幅削減に貢献する「正のゲームチェンジャー」になりうるのかの分析に入った。国際政治学会 (IPSA) の安全保障関連委員会との共催で 3 月 5 日に、「[国際シンポジウム「人新生時代におけるグローバルな不安性の再考察](#)」を開催し、主に「気候変動と核リスク」「新興技術と核リスク」について知見を広げ、考察を深めた。「2023 年秋」の科研費・基盤研究(A)申請を目指すことにしている。(吉田)



⑦国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館からの受託研究事業(厚生労働省の予算枠、2021-2023 年度)として「被爆の実相の伝承」のオンライン化・デジタル化事業)を実施している。2022 年度は被爆前の長崎の写真をもとに、6 本のスライド教材を作成(一部予定)。うち 2 本は広島を舞台にしたものである。全炳徳・情報データ科学部教授(RECNA 兼務教員)が 昨年度より作成してきた、米軍撮影の航空写真を用いて被爆前後の長崎を再現する 3D マップの長崎版を公開した。今年度は WEB 上での閲覧環境向上(表示速度の向上や、ノイズの除去)と、地図上に 3D で浦上天主堂など被爆後も残った建造物を 10 棟作成した。また、これらの成果物に加えて、昨年度作成の動画「写真は語りかける」や収集写真などをまとめて公開するための[共同事業のホームページ](#)を作成し、近く公開予定である。(林田)

⑧RECNA ラウンドテーブル・研究会等：今年度は、RECNA ラウンドテーブルを 1 回、

RECNA 研究会を 2 回開催した。ラウンドテーブルは、プリンストン大学のセバスチャン・フィリップ (Sebastian Philippe) 氏と、気候安全保障センター・戦略リスク評議会 (米国) のクリスティン・パルティモア (Christine Parthemore) 氏を話題提供者に迎えて、長崎大学「STAR 創出プログラム」であるグローバル巨大リスク管理研究プロジェクト (Nagasaki University, STAR Research Platform for Collective Survival in the Anthropocene: NURECSA) との共催で、2023 年 3 月 6 日に対面・オンラインで開催した【資料 1】。RECNA 研究会は、2023 年 2 月 18 日、朝日新聞編集委員の副島英樹氏を講師に迎えて、「冷戦終結、ソ連崩壊、そして核危機 ～ウクライナ戦争とゴルバチョフの遺言」をテーマに研究会を開催した。続いて 2 月 27 日には、韓信大学平和と公共センター長の李起豪 (イ・キホ) 教授を講師に迎えて「ウクライナ戦争と韓国世論:市民運動と教育の観点から (仮)」をテーマに研究会を対面・オンラインで開催した【資料 2】。(鈴木)

(2) 連携・協力

①長崎県・市等との協力：長崎県，長崎市，長崎大学で構成する核兵器廃絶長崎連絡協議会 (PCU 協議会) の活動等を通じて，良好な協力関係を継続している。PCU 協議会が主催する「ナガサキ・ユース代表団」プロジェクトに，RECNA は今年度も全面的に協力した。第 10 期生として，書類審査と英語面接を経て 7 名の若者が任命された (長崎大学生 6 名，長崎大学大学院生 1 名)。メンバーは，2022 年 8 月にニューヨークで開催された NPT 再検討会議へ派遣され，イベントの開催や各国代表，国際機関関係者との面会，日本語学校訪問等の活動を行い，帰国後に活動報告会や活動レポートの作成を行った。11 月には，第 11 期生の一次審査及び二次審査が行われ，7 名 (長崎大学生 6 名，活水女子大学 1 名) が選考された。11 期生は，2023 年 8 月にウィーンで開催される NPT 再検討会議準備委員会への派遣を予定している。(広瀬)

②

●8 月 9 日の長崎市平和宣言の作成に，朝長客員教授，梅林客員教授，吉田センター長が起草委員としてかかわった。平和式典「平和への誓い」代表者選定審査委員会には，調先生が委員長，三根客員教授，朝長客員教授，鈴木副センター長が委員として参加した。その他，長崎平和推進協会の活動にも講師派遣等の協力を行った。(広瀬)

長崎市，広島市，(公財) 広島平和文化センターとは軍縮教育の普及に向けた連携を進めている。2021 年に締結された広島平和文化センターと RECNA との平和・軍縮教育に関する連携協力についての覚書に基づき，平和首長会議の特設ウェブサイトへの核軍縮に関する情報提供，同加盟都市向けのニュースレター (日英) への寄稿，講演会への講師派遣等を継続している。(中村)

●ICU との包括連携協定に基づき，前記の「軍縮教育」に関する研究プロジェクトを実施した。教育分野では，ICU 大学院と長崎大学多文化社会学研究科の単位互換制度において，双方の教員が担当する科目を互換対象として実施した。

●韓国の研究機関との連携：ソウル大学統一平和研究所との交流はコロナ感染の発生後停

滞しているが、7月16日にソウル大学統一平和研究所が主催したアジアの安全保障に関するオンラインワークショップに広瀬副センター長が参加した。(広瀬)

韓信大学との協力では、前述のRECNAとICUの「軍縮教育」に関する共同研究プロジェクトにも協力いただいている李起豪(イ・キホ)平和と公共性センター長を講師にRECNA研究会を開催した。研究会に続いては、ナガサキ・ユース代表団メンバーら若者との李教授との対話セッションも開催した。(中村)

●広島市大学広島平和研究所との協力では2022年7月18日に、オンライン・シンポジウム2022「[戦争の記憶ーヒロシマ/ナガサキの空白](#)」を開催した。RECNAと広島平和研究所などの共催によるもので、山口RECNA特定准教授、林田RECNA特任研究員がパネリストで参加した。(吉田)

●広島県が一昨年度より開始した「[ひろしまイニシアティブ](#)」の一環で、「核軍縮と持続可能な未来に向けた理論構築に関する」プロジェクトのアドバイザーグループの一員として鈴木副センター長が参加し、提言作成に貢献した。2022年12月26日、広島G7サミットに向けての提言を広島県知事・長崎県知事が共同で岸田首相に手交した際にも同行した。(鈴木)

●国連及び関連国際機関との協力：ナガサキ・ユース代表団が2022年8月にニューヨークで開催されたNPT再検討会議に参加した際、中満泉・国連上級代表(軍縮担当)と面会し、意見交換を行った。(中村)

(3) 資料収集・保存

①核兵器廃絶に係る基礎情報を市民データベースとして整備し、ウェブ上で公開することはRECNAの重要な活動の一つである。2022年版の核弾頭データ・核物質データは、例年同様、6月1日付で最新のデータに更新した。核弾頭・核物質ともに英語版ページの更新も行った。PCU協議会が発行するポスター(核弾頭・核物質)と解説しおり(核弾頭・核物質)については、本年度は核弾頭データのみで作成とし、核物質データについてはウェブ上での更新とした。核弾頭ポスターは日英韓の3カ国語で、しおりは日英の2カ国語で作成している。ポスターとしおりは、長崎県内の小中高校をはじめとする教育機関や、国内外の関心ある市民に広く配布されている。海外の大学・平和博物館などからもポスター送付の依頼が増えている。(中村)

(4) 啓発・教育

①教育面では、多文化社会部と協力して来年度から同学部において、1年次から4年次を通して核軍縮不拡散を履修できる講義・演習科目を整備する準備を進めた。具体的には、来年度入学の学生から講義科目として、2年次に基礎科目「軍縮論」、3年次に専門科目「平和学」(2025年度以降「核軍縮不拡散政策論」に改称)を開講した。また、1年次の国際政治入門科目についても来年度入学の学生から核軍縮を取り上げる。担当は、2021年9月にRECNAに着任し、2022年4月から多文化社会学部へ移籍した西田充教授(RECNA

兼務教員)。多文化社会学研究科には前期課程に核軍縮・不拡散科目群、後期課程に核兵器廃絶・平和学系があり、学部での科目が加わることによって、①学部から博士課程後期までの一貫した教育・研究指導が可能になる、②学部から大学院への内部進学者の増大を期待できる。(西田)

2021年度は多文化社会学研究科博士課程前期・後期に、RECNA 教員担当の院生 2 名ずつ、計 4 名が在籍した。後期課程の 2 名はともに社会人で、リカレント教育にも貢献している。前期課程の 1 名は多文化社会学部からの内部進学である。来年度(2023年度)の入学予定者は前年度に引き続いて前期 1 名となっており、RECNA と多文化社会学研究科の連携の成果が継続的にあらわれている。国際基督教大学(ICU)との包括連携協定に基づいた ICU 大学院と多文化社会学研究科との単位互換制度において、RECNA と ICU 教員が担当する科目を互換対象として実施した。(吉田)

②教養モジュール「核兵器のない世界を目指して」では、今年度から新しくなった教養課程の教養モジュール I (1 年次生対象)として昨年度同様に後期に必修 3 科目が開講され、受講生は約 70 名であった。教養モジュール I は履修希望者が履修可能な上限を超えており、抽選により受講学生の絞り込みが実施された。加えて、自由選択科目 1 科目((後期。受講生約 70 名)の開講も継続した。英語開講のグローバルモジュールについては開講学期の変更に伴い今年度の開講はなかった。(広瀬)

③啓発面では、10 周年記念企画としての 2 回の特別講座を含め、PCU 協議会主催の核兵器廃絶市民講座を全 5 回開催した。コロナ禍の影響で 5 回とも会場およびオンライン併用の開催となったが、毎回長崎県外からの参加申し込みもり、参加者の拡大につながっている。(広瀬)

(5) 発信・出版

①RECNA が編集を担当する長崎大学発行、テラー&フランシス社出版のオンライン国際学術誌 Journal for Peace and Nuclear Disarmament (J-PAND、2017 年 12 月発刊)は、1 年に 1 巻(各巻に 2 号)のペースで刊行してきた。本年度も第 5 巻 1、2 号を発刊した(それぞれ 2022 年 6 月、12 月)。これに加え、「北東アジアにおける核使用リスクの削減(NU-NEA)」プロジェクトによる特別号を刊行した。2022 年の主な実績は以下の通りである。

1) 閲覧数

・2022 年 1~12 月の閲覧数(論文ダウンロード数)は 17 万 2866 件であり、2021 年(17 万 2827 件)とほぼ同数であった。

・創刊以来、掲載論文総数は 194 本で、このうち 7 万件以上の閲覧数の論文が 1 本(朝長万左男客員教授著)、1 万~4 万件が 7 本、5000 件~1 万件の論文が 18 本。

2) 論文の引用

・2019 年、2020 年に刊行された論文計 62 本の 2021 年における被引用回数は 54 回で、ジャーナル・インパクト・ファクター(JIF)の仮数値を出すと、0.871 となる。

3) JIF

・JIF が掲載される Journal Citation Reports (JCR) を発行しているクラリベイト・アナリティクス社の方針変更 (2022 年 7 月) により、J-PAND が掲載されている論文データベース ESCI (Emerging Sources Citation Index) 所収のジャーナルについても、JIF が付与されることとなった。J-PAND を含むこれらジャーナルには、2023 年 6 月に JIF が付与される公算が大きい。(山口)

②2022 年度は、RECNA 叢書 8 号『核なき世界への選択～非核兵器地帯の歴史から学ぶ』を 2023 年 3 月に[デジタル図書](#)として発刊した。PSNA2 のメンバーでもあるエクゼキエル・ラコブスキー氏 (ヘブライ大学ハリー・S・トルーマン平和促進研究所研究員) による『Nuclear Weapons Free Zone – A Comparative Analysis』の日本語訳となる。日本語版に向けて、ラコブスキー氏には北東アジア非核兵器地帯に関する章を新たに執筆していただいた。(中村)

2021 年度より RECNA 叢書をデジタルで読めるようにする作業に着手した。RECNA 叢書 1~7 号のうち、6, 7 号は最初からデジタル書籍として刊行したが、1-5 号は普通の書籍である。この中には翻訳の著作権切れで絶版になるものや、発行部数が少なく購入困難になる可能性があるものが含まれる。そこで RECNA 叢書すべてを継続的に読めるようにするため、順次、デジタルではない書籍をデジタル化してきた。長崎大学など多くの大学の図書館が購入している Maruzen eBook Library にすべての RECNA 叢書を収載していく作業を進めている。(吉田)

③今年度のポリシーペーパーは、2023 年 5 月に開催される広島 G7 サミットにむけて、「核軍縮の再生：広島 G7 サミットに向けて」を 2023 年 3 月に発表した。レクナの目については、2022 年 5 月 25 日に「[日米・韓米首脳共同声明について：北東アジア非核化と核軍縮の視点から](#)」、6 月 24 日に「[核兵器禁止条約第 1 回締約国会議を終えて](#)」、7 月 8 日に「[ドイツ外務大臣の長崎訪問を歓迎する](#)」、2023 年 2 月 24 日に「[ウクライナ侵攻開始から 1 年を迎えて](#)」を発表した。(鈴木)

④RECNA ニュースレターについては、デジタル版での年二回発行で、今年度は 2022 年 9 月に Vol.11 No.1 ([日・英](#)) を予定通りに発行し、2023 年 3 月に Vol.11 No.2 ([日・英](#)) を刊行した。(広瀬)

(6) その他

①2022 年度は RECNA 創立 10 周年となることから、その記念事業を開催した。同じく 10 周年を迎えた核兵器廃絶長崎連絡協議会との合同事業として、核兵器廃絶市民講座において、2022 年 7 月 2 日に「[RECNA10 年を振り返る](#)」、9 月 17 日に「[RECNA の今後を考える](#)」を開催した。また、10 周年記念特別講演会として、[第 1 回](#)を 10 月 29 日に駐日ジャマイカ大使のショーナ・ケイ・リチャーズ大使を招き、[第 2 回](#)を 2023 年 1 月 21 日に芥川賞作家平野啓一郎氏を招いて開催した。RECNA 単独事業としては、若手を対象とした「[核なき未来オピニオン賞](#)」を設置、厳正な審査を経て (西山心さんが最優秀賞、他

2名が優秀賞を受賞された。その[結果発表と第1回受賞式](#)を9月24日に開催した。(鈴木)

以上

< 教員活動報告 >

2022 年度専任教員活動報告

氏名 吉田 文彦 [↑](#)

肩書 RECNA センター長・教授

長崎大学多文化社会学研究科教授

長崎大学プラネタリーヘルス学環教授

長崎大学刊 Journal for Peace and Nuclear Disarmament (J-PAND) 編集長

I. 教育

(1) 担当科目

- | | |
|-----------------|---|
| 多文化社会学研究科博士前期課程 | 「核軍縮と国際政治特講」
「核軍縮と国際政治特定演習」
修士論文指導 (院生二人) |
| 多文化社会学研究科博士後期課程 | 博士論文指導 (院生一人) |

II. 研究

(1) 主要研究テーマ

- 核軍縮政策
- 核不拡散政策
- 核戦略と安全保障

(2) 業績一覧 (research map を参照)

[吉田 文彦 \(Fumihiko Yoshida\) - 書籍等出版物 - researchmap](#)

[吉田 文彦 \(Fumihiko Yoshida\) - 論文 - researchmap](#)

[吉田 文彦 \(Fumihiko Yoshida\) - 講演・口頭発表等 - researchmap](#)

III. 社会貢献

(1) 連携事業

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館からの受託研究事業 (厚生労働省の予算枠) として「被爆の実相の伝承」のオンライン化・デジタル化事業) を実施(2021-23 年度)

(2) 外部委員

[吉田 文彦 \(Fumihiko Yoshida\) - 委員歴 - researchmap](#)

(3) 市民向けのシンポジウム等

[吉田 文彦 \(Fumihiko Yoshida\) - 社会貢献活動 - researchmap](#)

(4) メディア報道

[吉田 文彦 \(Fumihiko Yoshida\) - メディア報道 - researchmap](#)

その他は、本年報の「2022年度 報道記事」参照

IV. 校務分掌

[吉田 文彦 \(Fumihiko Yoshida\) - 委員歴 - researchmap](#)

氏名 **鈴木 達治郎** [↑](#)

肩書 RECNA 副センター長・教授

I. 教育

(1) 担当科目

全学モジュール I・II	「被ばくと社会」
多文化社会学研究科博士前期課程	「原子力平和利用と核不拡散」(特講・演習)
	「核物質管理と核セキュリティ」(特講・演習)

II. 研究

(1) 主要研究テーマ : 核軍縮・核不拡散政策、北東アジア非核兵器地帯と包括的安全保障、核物質管理・核セキュリティ、原子力平和利用と核不拡散

(2) 業績一覧 (researchmap を参照)

[鈴木達治郎 \(Tatsujiro Suzuki\) 書籍等出版物 researchmap](#)

[鈴木達治郎 \(Tatsujiro Suzuki\) 論文 researchmap](#)

[鈴木達治郎 \(Tatsujiro Suzuki\) 講演・口頭発表等 researchmap](#)

III. 地域貢献

(1) 連携事業

特になし

(2) 外部委員

- 日本軍縮学会監事
- 衆議院原子力問題調査特別委員会アドバイザーボード メンバー
- 科学技術振興機構社会技術研究センター (RISTEX) 運営評価委員会座長
- 日本パグウォッシュ会議会長代行、パグウォッシュ会議評議員、執行委員
- 「安全保障と先端技術プラットフォーム」(PSET) 共同代表
- 日本経済研究センター 特任研究員

- 笹川平和財団 「原子力平和利用と核不拡散研究会」 座長
- アジア太平洋核不拡散・軍縮リーダーシップネットワーク (Asia Pacific Leadership Network for Nuclear Non-proliferation and Disarmament [APLN]) 理事会メンバー
- オープン・ニュークリア・ネットワーク (Open Nuclear Network) メンバー
- 沖縄平和賞審査委員
- 国際平和映像祭審査委員

(3) 市民向けの活動等

[鈴木達治郎 \(Tatsujiro Suzuki\) 社会貢献活動 researchmap](#)

(4) メディア報道

[鈴木達治郎 \(Tatsujiro Suzuki\) メディア報道 researchmap](#)

IV. 校務分掌

特になし

氏名 [広瀬 訓 ↑](#)

肩書 RECNA 副センター長・教授

I. 教育

(1) 担当科目

全学モジュール I・II	「国際社会と平和」
多文化社会学部	「国際機構論」 「軍縮論」(科目責任者) 「基礎演習 I・II」 「専門演習 I・II」
医学部	「医学史・原爆医学と長崎」

II. 研究

(1) 主要研究テーマ

- 包括的核実験禁止条約 (CTBT) の意義と特徴
- 国際人道法上の核兵器の位置づけ
- 核兵器禁止条約における被害者支援のあり方
- 軍縮・平和教育における各種メディアの有効活用

(2) 業績一覧 (researchmap を参照)

[広瀬 訓\(Satoshi Hirose\) 書籍等出版物 researchmap](#)

[広瀬 訓\(Satoshi Hirose\) 論文 researchmap](#)

[広瀬 訓\(Satoshi Hirose\) 講演・口頭発表等 researchmap](#)

III. 地域貢献

(1) 連携事業

- 長崎市立西泊中学校平和学習「核兵器の現状、国際社会の取り組み」（2022年6月30日）
- 子どもの本・九条の会 子どもの本 de 平和を語ろう！ブックトーク「風が吹くとき」（2022年11月12日）
- 公益財団法人 長崎平和推進協会語り継ぐ被爆体験（家族・交流証言）講座「核兵器と国際社会」（2023年2月18日）

(2) 外部委員

[広瀬 訓\(Satoshi Hirose\) 委員歴 researchmap](#)

(3) 市民向け活動等

[広瀬 訓\(Satoshi Hirose\) 社会貢献活動 researchmap](#)

(4) メディア報道

[広瀬 訓\(Satoshi Hirose\) メディア報道 researchmap](#)

IV. 校務分掌・その他

(1) 校務分掌

- 全学モジュール小委員会委員

氏名 中村 桂子 [↑](#)

肩書 RECNA 准教授

I. 教育

(1) 担当科目

教養モジュール I	「核兵器のない世界を目指して」（責任者）
教養モジュール II	「平和と安全保障」（英語開講）
	「日本文化史と現代の核問題」（英語開講）（責任者）
多文化社会学部	「軍縮論」（オムニバス）

II. 研究

(1) 主要研究テーマ

- 核軍縮・不拡散をめぐる多国間協議の動向

- 核兵器廃絶に向けた市民社会の取り組み
- 核軍縮・不拡散教育

(2) 業績一覧 (researchmap を参照)

[中村桂子\(Keiko Nakamura\) 書籍等出版物 reserachmap](#)

[中村桂子\(Keiko Nakamura\) 論文 reserachmap](#)

[中村桂子\(Keiko Nakamura\) 講演・口頭発表等 reserachmap](#)

III. 地域貢献

(1) 連携事業

(2) 外部委員

[中村桂子\(Keiko Nakamura\) 委員歴 reserachmap](#)

(3) 市民向け活動等

[中村桂子\(Keiko Nakamura\) 社会貢献活動 reserachmap](#)

(4) メディア報道等

[中村桂子\(Keiko Nakamura\) メディア報道 reserachmap](#)

IV. 校務分掌・その他

(1) 校務分掌

なし

<リンク集>

出版物 [↑](#)

- ・ J-PAND [第5巻1号](#), [第5巻2号](#)
- ・ RECNA ニュースレター [Vol.11 No.1](#), [Vol.11 No.2](#)
- ・ RECNA Newsletter [Vol.11 No.1](#), [Vol.11 No.2](#)
- ・ RECNA ポリシーペーパー [REC-PP-16](#) 「核軍縮の再生：広島 G7 サミットに向けて」
- ・ RECNA 叢書 [第8巻](#) 『核なき世界への選択—非核兵器地帯の歴史から学ぶ』
- ・ 政策提言 『核兵器禁止条約を通じた放射線被害者支援に向けて』（[日](#)・[英](#)）
- ・ Capsule [No.2](#) 『ナガサキ・ユース代表団 10 年誌』

活動報告 [↑](#)

- ・ 令和4年度 核兵器廃絶市民講座「核兵器のない世界を目指して」
 - [第1回](#) 「これからの核軍縮：核兵器禁止条約と核不拡散条約」
 - [第2回](#) 「10周年記念特別講座：RECNA10年を振り返る」
 - [第3回](#) 「10周年記念特別講座：RECNAの今後を考える」
 - [第4回](#) 「米中関係と核軍縮」
 - [第5回](#) 「私たちの平和活動は持続可能か」
- ・ 「核なき未来」オピニオン募集 [第1回](#)
- ・ ピースキャリアトーク [第1回](#)
- ・ 北東アジアの平和と安全保障に関する専門家パネル
プロジェクト「[北東アジアにおける核使用リスクの削減 \(NU-NEA\)](#)」報告 ([No.2](#))
公開シンポジウム「[北東アジアにおける核使用の可能性：核リスク削減についての示唆](#)」
- ・ 「被爆の実相の伝承」のオンライン化・デジタル化事業
スライド教材「[被爆前の長崎の写真](#)」
デジタルアーカイブ「[被爆前後の長崎](#)」（3D 画像）
Web サイト「[被爆前の日常アーカイブ](#)」
- ・ PCU-NC および RECNA 創立 10 周年記念特別講演会
 - [第1回](#) 「核なき世界への新たな挑戦-長崎からの発信-」
 - [第2回](#) 「核なき世界の想像／創造」
- ・ RECNA の将来を語る会 [第1回](#), [第2回](#) （開催案内）
- ・ RECNA ラウンドテーブル [20230306](#) （開催案内）
- ・ RECNA 研究会 [第38回](#), [第39回](#) （開催案内）
- ・ RECNA 運営委員会 [第14回](#) （議事次第）

教育 [↑](#)

- ・ 大学院 多文化社会学研究科
[核軍縮・不拡散科目群](#)

・教養教育

教養モジュールⅠ [「核兵器のない世界を目指して」](#)

教養モジュールⅡ [「平和と安全保障」](#)（英語開講）

[「日本文化史と現代の核問題」](#)（英語開講）

全学モジュールⅠ [「核兵器のない世界を目指して」](#)

ウェブサイト [↑](#)

・[市民データベース](#)

・世界の[核弾頭](#)・[核物質](#)データ

・レクナの目 [No.22](#) (英), [No.23](#), [No.24](#) (英), [No.25](#) (英)

ナガサキ・ユース代表団 [↑](#)

・第10期生

[募集ポスター](#)

[メンバー紹介](#)

[ブログ](#)

[活動報告会](#)

[活動レポート](#)

長崎大学核兵器廃絶研究センター年報2022

2022年度 報道記事 [↑](#)

番号	日付	新聞	見出し
1	4月1日	朝日	動画、マップ 被爆伝える教材に 当時の写真使いRECNA、開発
2	4月1日	長崎	軍縮教育の重要性説く 長大レクナが政策研究報告 武力に依存しない世界への変革を
3	4月3日	西日本	被爆詩人に核廃絶誓う 福田須磨子さん命日しのぶ会 平和公園 ロシアへ抗議の声
4	4月4日	長崎	核共有 「机上の空論」と「現実」
5	4月5日	朝日	「『核共有』議論こそ非現実的」「長崎の証言の会」が抗議文
6	4月6日	朝日	核禁初会議に「被爆者の声」 NGOや大学が準備始める ICAN,発言機会働きかけ
7	4月6日	長崎	核禁条約参加求め新組織 県内被爆者、市民団体など結束 核巡る情勢に危機感
8	4月7日	西日本	核禁条約会議へ提言 長崎大RECNAと原研まとめ 医療、支援制度WG創設を
9	4月7日	西日本	核兵器禁止条約に実効性を 論文集め RECNAが電子書籍
10	4月7日	朝日	核禁会議へ政府提言 長崎大 医療など知見生かす
11	4月7日	朝日	被爆者ら新組織 来月にも
12	4月7日	長崎	核禁条約WG設置を 放射線被害者支援で提言 長崎大レクナ・原研
13	4月7日	読売	放射線被爆者支援へ提言 RECNAなど 各禁止条約会議前に
14	4月7日	毎日	核実験被害者支援へ提言 長崎大レクナなど核禁条約会議に
15	4月7日	原子力産業	長崎大、放射線被爆者支援に関する政策提言を発表
16	4月8日	長崎	ウクライナ危機に直面して
17	4月13日	長崎	バイデン政権初の核実験 臨界前、昨年6、9月
18	4月13日	長崎	長崎原爆忌平和記念俳句大会 自由に広く『人間のうた』を 来月2日締め切り 2部門で作品募集
19	4月13日	長崎	「核使用に現実味」米臨界前実験 県内被爆者 募る危機感
20	4月13日	読売	原爆が奪った日常6000枚 RECNAに写真 教材やデジタル地図に活用 7月の一般公開目指す
21	4月13日	産経	米、臨界前核実験を実施 バイデン政権初 核戦力近代化を推進
22	4月14日	西日本	爆心地行ったり来たり すさまじさの背景に
23	4月15日	長崎	被爆体験語る映像 ウェブで「8月9日の記憶」公開 平和推進協 現地で聞き取り
24	4月15日	朝日	「米大統領は長崎訪問を」核実験報道 平和推進協が抗議文
25	4月18日	長崎	平和大集会6月開催 長崎 地球市民実行委3年ぶり
26	4月18日	朝日	西田・長崎大教授に聞く「各共有」とは 平時は米軍が管理 同盟国領土に核配備 「持ち込ませず」に反する
27	4月20日	長崎	ウクライナ侵攻 冷戦終結の好機生かせず
28	4月20日	長崎	「平和への誓い」読み上げ 候補者7人に絞る 長崎市審査会 来月下旬に動画審査
29	4月20日	朝日	「平和への誓い」代表候補7人に 長崎市絞り込み
30	4月20日	日本経済	ロシア核使用 募る懸念 弾道ミサイルで市民攻撃 小型・低出力型 選択肢に
31	4月23日	朝日	ひもとく ウクライナ侵攻と「核」 二つの恐怖が問いかけるもの
32	4月27日	朝日	市民へ攻撃 ロシアを非難 ゲルニカ空爆から8年 体験者と長崎の被爆者ら、連名で文書
33	4月27日	長崎	ウクライナ侵攻 ゲルニカ爆撃体験者と長崎の被爆 「時代に逆行」露に抗議
34	4月27日	毎日	長崎の被爆者とゲルニカ爆撃生存者 「露は何も学んでいない」ウクライナ侵攻で共同抗議文
35	4月28日	西日本	核近代化を進める保有国
36	4月28日	長崎	10周年で若者人材育成 長大レクナと核兵器廃絶長崎連絡協
37	4月28日	長崎	オピニオンを募集 最優秀作 本誌に掲載 「核兵器と私たちの未来」
38	4月29日	長崎	「核兵器禁止条約の会・長崎」来月結成 「世界」「若い世代」と思い共有を 「逆流」にあらがう被爆者
39	4月29日	毎日	「核禁条約の会・長崎」来月設立 被爆者4団体「核共有」議論に危機感
40	4月30日	長崎	「苦悩なかったことに」 友愛会解散1ヵ月 被爆者運動資料「保存は継承の形」

長崎大学核兵器廃絶研究センター年報2022

2022年度 報道記事

番号	日付	新聞	見出し
41	5月1日	長崎	長崎で市民講座「原点に立ち返るべき」レクナ、中村氏 核軍縮テーマに講演
42	5月1日	西日本	核軍縮の行方議論 長崎市でRECNA市民講座 ロシア核威嚇 影響も分析
43	5月1日	読売	核軍縮への課題考える 核廃絶長崎連絡協 講座に60人参加
44	5月2日	長崎	長大レクナ 10周年
45	5月4日	毎日	核共有論 人類の脅威 「第二のウクライナに」は卑劣
46	5月6日	西日本	「核」論議の殻破る現実
47	5月6日	長崎	史上初 世界に衝撃 稼働中ザポロジエ 砲弾 カメラ捉える
48	5月6日	長崎	攻撃禁止が国際ルール 抑止へ改めて議論を
49	5月6日	長崎	核軍縮外交が破綻
50	5月7日	朝日	核廃絶「次世代の意見表明を」 RECNA10周年記念 16～30歳未満の論考募集
51	5月7日	読売	核廃絶へ情報発信サイト 長崎連絡協 10周年事業を発表
52	5月7日	日本経済新聞	チェルノブイリ 「核の脅威」のもたらす悲惨
53	5月8日	長崎	平和宣言起草委 核の力でなく「対話」を 初代会合 非核三原則堅持も
54	5月12日	西日本	世界へ発信「強める」核兵器禁止条約の会・長崎 28日の発足前に活動方針
55	5月12日	毎日	露の核使用の懸念強まる中 「悪夢繰り返すな」平和宣言の起草委が初代会合
56	5月13日	長崎経済新聞	長崎大核兵器廃絶研究センターが若者の意見募集 「核兵器と未来」テーマに
57	5月19日	長崎	プラネタリーヘルス■2■ 長崎大学の挑戦 被爆地長崎からできること
58	5月22日	長崎	窓を開いて 沖縄の状況に関心持ちたい
59	5月23日	長崎	再開発と被爆遺構 歴史を消し去る前に
60	5月25日	長崎	「信頼醸成のため対話を」 長大レクナなど 核使用リスク削減でシンポ
61	5月26日	長崎	長大レクナ 米韓・日米首脳声明に見解 「北東アの信頼醸成 安保枠組み提起を」
62	5月26日	朝日	核なき世界へ 日米は 首脳会談 専門家に聞く
63	5月26日	毎日小学生新聞	「核の脅し」繰り返すロシア 「核戦力」の競争が心配 核なき世界に1万3000発 危険な状況続く
64	5月27日	朝日	平和式典 ロシア招待せず 広島・長崎 他国欠席や講義 懸念
65	5月29日	長崎	「核禁条約の会・長崎」結成 核軍縮再起動を 露の侵攻など巡り対談
66	5月29日	西日本	核禁条約の会が発足 被爆者ら9団体 参加国拡大目指す
67	5月30日	長崎	記憶つなぐ人生の足跡 「わたし」の日記
68	5月30日	朝日	「核禁条約批准を」新組織がアピール 9団体が発足
69	6月1日	長崎	「平和の誓い」宮田さん 8・9式典 世界各地で体験語る
70	6月1日	西日本	「平和への誓い」被爆者代表に宮田さん 「悲惨な実相 世界に」
71	6月1日	長崎NR	インフォメーション案内
72	6月3日	長崎	核の非人道会議 日本参加 代表団に本県から朝長さん 禁止条約会合は見送り 安保重視も世論に配慮「苦肉の策」
73	6月3日	西日本	核の非人道会議 日本代表団参派遣 核禁条約会議は見送り
74	6月3日	朝日新聞デジタル	使用を示唆するロシアの核弾頭数は……一覧できるポスターが完成
75	6月4日	長崎	G7広島開催合意 空前の核危機試される英知
76	6月4日	長崎	世界の核弾頭1万2720発 長大レクナ推計 「軍拡の傾向続く」
77	6月4日	朝日	世界の核弾頭1万2720発
78	6月4日	西日本	核弾頭なお1万2720発 世界9カ国、長崎大推計 「使用リスク高まっている」
79	6月4日	毎日	核弾頭なお1万2720発 長崎大の研究センター推計
80	5月5日	東典日報	原発攻撃の波紋 稼働中砲弾 世界に衝撃 飛び散る火花、建物炎上

長崎大学核兵器廃絶研究センター年報2022

2022年度 報道記事

番号	日付	新聞	見出し
81	6月5日	中央日報	日本の研究所「北朝鮮は核弾頭40発 保有推定・・・2年間で5発以上増加
82	6月7日	自由時報電子報	世界の核弾頭 1万2720発
83	6月8日	朝日	「核なき世界」ウィーンで訴えへ 被爆者50人超、核禁会議に合わせ 政府の参加見送り方針 批判
84	6月9日	朝日	核被害者援助の課題提言 核禁会議21日開幕・国内専門家らも活発化 「誰が対象？」根本議論促す
85-1,2	6月9日	長崎	核問題考える絶好の機会
86	6月9日	読売	RECNA推計 世界の核弾頭1万2720発 前年比410減 「軍用」ほぼ横ばい
87	6月10日	朝日	首相動静
88	6月10日	西日本	首相動静
89	6月10日	中日新聞しずおかweb	岐路の安全保障<上> 第五福竜丸の記憶
90	6月12日	長崎	高まる核危機 不使用訴え 長崎市が平和宣言文原案
91	6月12日	西日本	平和宣言素案 「現状への危機感を」 ウクライナ軍事侵攻受け
92	6月14日	長崎	3年ぶり平和大集会 長崎「ひまわり」に秋月賞贈呈
93	6月14日	朝日	合唱団「ひまわり」秋月平和賞を受賞 ながさき平和大集会
94	6月14日	毎日	ヒバクシャ 核の脅し 許さぬ
95	6月14日	毎日	「被爆者の声聞いて」 核禁会議出発の若者が会見
96	6月14日	毎日	ヒバクシャ 核の脅し 許さぬ 禁止条約 初の締約国会議へ決意
97	6月15日	西日本	核禁条約会議を前に識者に聞く 不使用の「規範」強化を
98	6月15日	西日本	知事、核禁条約の賛同人に 被爆者らの要請に応じる
99	6月16日	西日本	爆心地行ったり来たり 国際政治 ネバー セイ ネバー
100	6月16日	西日本	核なき世界を 核廃絶への1歩 この目で 長崎から若者の思いを 締約国会議へ 神浦さん、福永さん
101	6月18日	長崎	「核兵器減らず」採択 西浦上中で”国際会議” 4グループ「で熱く議論
102	6月18日	長崎	核兵器の非人道性”告発” 「核の傘」脱却へ鍵握鶴市民
103	6月19日	長崎	核軍縮へ「非人道性」焦点 ポイント解説 長大レクナ 中村准教授 核禁会議2022
104	6月20日	朝日	被爆の実相 映像作品で 核といのちを考える 車いすの語り部 生き様描く「平和の旅へ」完成
105	6月20日	毎日	日本の条約参加 糸口探る 長崎大院生、現地に
106	6月21日	西日本	核なき時代を 被爆医師 執念と希望 「被爆特使」朝長さん非人道性訴え 廃絶の一步「見届ける」
107	6月21日	毎日	そこが聞きたい 核施設攻撃の衝撃 原発依存リスクさらに
108	6月22日	長崎	核禁会議2022「ナガサキの声聞いて」 県内被爆者 開幕見守る
109	6月22日	朝日	シンポ・核兵器廃絶への道
110	6月22日	西日本	迫る核危機「橋渡し」不在 第1回核禁会議が開幕 日本 米の抑止力に傾斜 「見るに堪えない」参加国落胆
111	6月23日	長崎	核禁会議2022「核保有国の日本に圧力を」 長崎の被爆医師 朝長さん条約参加訴え
112	6月23日	朝日	「傘」のジレンマ 越えなければ 長崎で被爆の朝長さん 核禁会議で
113	6月23日	西日本	核なき時代を 「保有国に最大の圧力を」 核禁条約会議 朝長さんスピーチ
114	6月24日	長崎	核禁会議2022 届けた「ナガサキの声」 日本政府の姿勢 世界が注視
115	6月24日	西日本	不参加日本 立場難しく NATO加盟国が存在感 核禁会議閉幕へ
116	6月25日	長崎	「道筋示された」 長崎の被爆者ら歓迎
117	6月25日	長崎	核禁会議2022 長崎の若者ら 核軍縮最前線に触れる 会議傍聴、廃絶訴え 「役目果たせた」「帰ってから本番」
118	6月25日	朝日	被爆者ら 「オブザーバー参加 評価」「日本の主張に論拠なし」
119	6月25日	西日本	核廃絶へ強いメッセージ
120	6月26日	長崎	「平和宣言」過去73回分を収録 早稲田大学出版部 「ナガサキの願い」発行

長崎大学核兵器廃絶研究センター年報2022

2022年度 報道記事

番号	日付	新聞	見出し
121	6月26日	朝日	核といのちを考える 2022 ウィーン会議 核禁の未来 一筋の光 歩み寄る可能性「感じた」 ■被爆した医師
122	6月26日	朝日	19歳「わたしたちの問題」 ■若者の参加者
123	6月30日	読売(夕刊)	数字で見る参院選22 世界の核弾頭数1万2720発 被爆国 外交努力もっと
124	7月1日	中国新聞	核兵器禁止条約 第1回締約国会議を終えて 非人道性共有 拡大の鍵 保有国側に変化の兆し
125	7月3日	長崎	核軍縮 若者の活動後押し 長大レクナ設立10周年記念特別講座
126	7月4日	長崎	ながさき時評 核禁協約と被害者援助 試される「被爆国」の態度
127	7月4日	朝日	信と疑のあいだ 世界が待つ 蜘蛛の振る舞い 追いつめられ 不安にゆれ 吉兆信じる
128	7月5日	長崎	核禁会議 クメント議長 日本政府 態度転換を 米 核禁条約に協調的
129	7月6日	長崎	ヒバクシャ 確かな一歩 核禁会議を終えて 「核被害者に光」と評価
130	7月7日	長崎	確かな一歩 核禁会議を終えて 被爆国 橋渡し役へ 力発揮を
131	7月10日	長崎	被爆ナガサキ77年 核禁会議へ意義盛り込む 平和宣言起草委最終会合 長崎市修正案、委員ら賛同
132	7月11日	長崎	「核なき世界 もう待てぬ」被爆医師、朝長さん講演
133	7月11日	西日本	「核なき世界 もう待てぬ」長崎被爆の朝長さん講演
134	7月14日	西日本	読み解く 津波予見も「無視に腐心」東電株主代表訴訟判決 企業風土を問題視 識者「安全意識改革を」
135	7月14日	西日本	爆心地行ったり来たり ロビー活動 身近な人と語ることも
136	7月16日	長崎	原爆投下から77年 世界に核弾頭、今も1万2720発 保有国の脅し 状況は深刻
137	7月18日	長崎	原潜監視 米圧力で緩和 「本土の沖縄化」に警鐘 高まる基地負担
138	7月19日	朝日	核戦争の危機 今こそ軍縮を 「核共有」日本がむしろ危うくなる
139	7月19日	毎日	「核なき世界待てぬ」被爆医師の朝長さん 名古屋で講演
140	7月19日	中国新聞	原爆被害「空白」解明を 広島市立大や本社 シンポジウム 多角的視点 重要性訴え
141	7月22日	長崎	核禁条約 賛同人要請へ 県内首長らに被爆者4団体
142	7月21日	長崎	懸念の核使用「事実無根」露大使館が反論文書 核禁条約の会・長崎に
143	7月26日	中国新聞	公開情報で遺骨返還実現 動態調査 資料探しが必要
144	7月26日	中国新聞	被爆前の日常写真を活用/リアリティー取り戻す
145	7月27日	朝日	「核使用の懸念 事実無根」 アピール文にロシア大使反論
146	7月27日	毎日	「核禁条約の会」田上市長も賛同
147	7月27日	東京	不安な時代こそ冷静な議論 核兵器廃絶テーマ 中原区で「つどい」
148	7月28日	長崎	被爆前の日常 デジタル教材化 長大レクナ 被爆者2人の写真や証言基に
149	7月28日	長崎	「核問題 積極的に議論」 NPT会議、3年ぶり派遣
150	7月28日	西日本	「核威嚇は事実無根」 核禁条約の会・長崎へ ロ大使から反論
151	7月28日	読売	ユース代表団 意気込み 長崎市長表敬 来月NPT会議へ
152	7月29日	朝日	逆境越え 核廃絶発信を ウクライナ侵攻後 8月のNPT会議
153	7月29日	朝日	シンポ・核兵器廃絶への道 あす長崎
154	7月29日	朝日	核保有国・非保有国 対話に希望 被爆者ら、NPT開催にあわせ渡米
155	7月29日	毎日	核保有国参加の道探れ 核禁条約会議に出席 被爆医師・朝長万左男さん NGO交え3 者議論で歩み寄りを
156	7月30日	長崎	窓を開いて 災害に備え情報の活用を
157	7月30日	朝日	原爆知る機会 日常に必要 クリエイティブディレクター 辻 愛沙子さん 国際平和シンポ 長崎できょう
158	7月30日	西日本	ナガサキ・ユース7人 NPT会議に出席へ 「各国の意見を吸収する」
159	7月30日	朝日小学生新聞	8月1日からNPT再検討会議 核兵器減らす議論進むかな 9か国に計1万2千発以上、米口が9割
160	7月31日	長崎	長大レクナ NPT2022 再検討会議報告 ■1 ■岐路に立つ世界 合意不透明

長崎大学核兵器廃絶研究センター年報2022

2022年度 報道記事

番号	日付	新聞	見出し
161	7月31日	長崎	「被爆者の声を聞いて」 NPT会議発言予定 被団協の和田さん訴え
162	7月31日	朝日	核戦争「唯一の解決策は核廃絶」 長崎で国際平和シンポ
163	8月1日	日本経済新聞	新疆 核実験再開の兆候 施設拡張、専門家が衛星解析 台湾にらみ米と欧州
164	8月1日	日本経済新聞	地下核実験 小型弾頭開発へデータ収集
165	8月3日	長崎	ヒロシマ・アクション・プラン 行動計画「具体性乏しい」
166	8月3日	長崎	岸田首相のNPT演説に県内被爆者ら 姿勢評価も具体策に注文
167	8月3日	朝日	首相演説 被爆者ら落胆 NPT会議 核禁条約に言及なし
168	8月3日	西日本	「核禁条約を意図的に無視」「廃絶 本心か確信持てない」 被爆者ら視線冷ややか
169	8月4日	朝日	NPT会議 NYからプログリポート 長大RECNAの4教員
170	8月4日	東京夕刊	核軍縮へ 私たちの突破力示す 長崎大教授 NPT会議を現地レポート「踏み込めない首相演説」
171	8月5日	西日本	最後の被爆地に2022ナガサキ 揺れる核廃絶 あきらめない「ロシアこそ長崎に」
172	8月6日	長崎	親子二代 核時代の葛藤 元米兵 広島原爆の日に手記公開 父は正当化 子は秘密計画関与
173	8月6日	朝日	国際平和シンポジウム2022 核兵器廃絶への道 原爆 現代だったら・・・想像して
174	8月6日	毎日	被爆77年特別番組「進もう 核禁への道」 長崎原爆被爆者慰霊平和記念式典中継
175	8月6日	公明新聞	核禁条約が義務付ける被爆者援助の規定 世界のヒバクシャの要請 国際社会全体の責務と明記
176	8月9日	長崎	「北東アジアを非核地帯に」 長崎 日韓議員9人が議連設立
177	8月9日	中国新聞	決裂回避優先の可能性 長崎大・中村准教授に聞く 核戦争への危機感共有
178	8月10日	長崎	ウィーンからニューヨークへ 核禁の課題 各国と議論を
179	8月10日	西日本	読み解く 反核 世界が意思表示 式典 最多の83カ国参列 「抑止論」拡大に危機感も
180	8月10日	読売	平和の訴え 新しい風 ユース代表团・福永さん NPT会議参加へ
181	8月13日	中日こどもWEEKLY	まるごと大図鑑 いる？いない？どう考える？核兵器と核の平和利用
182	8月14日	長崎	核の脅威 「世界中で議論を」 長崎の学生、NYで訴え
183	8月15日	長崎	長大レクナ NPT2022 再検討会議報告 ■2■ 踏み込めない首相演説
184	8月18日	長崎	長大レクナ NPT2022 再検討会議報告 ■3■ 「核抑止」の二重基準？
185	8月19日	長崎	ナガサキ・ユース代表团 核軍縮を巡って日本の役割問う
186	8月19日	西日本	ナガサキ・ユース代表团 核軍縮で意見交換 NPT再検討会議 日本大使と面会
187	8月21日	長崎	長大レクナ NPT2022 再検討会議報告 ■4■ 「人道的な側面」どこに
188	8月26日	長崎	長大レクナ NPT2022 再検討会議報告 ■5■ 安易な「合意」の恐れ
189	8月28日	長崎	被爆者「危機的状況」 NPT再び決裂 交渉過程 次に生かせ 長崎失望、そして決意
190	8月28日	長崎	視標「NPT再検討会議」機能不全に陥った「礎石」
191	8月28日	朝日	被爆地の思い ないがしろ NPT会議決裂に落胆・憤り
192	8月28日	西日本	NPT会議再び決裂 ウクライナ記述巡りロシア最終文書に反対 機能不全 抜本的改革を
193	8月28日	西日本	廃絶の声 踏みにじられ と歌い繰り返す「全く駄目」「保有国との溝広がった」「日本政府 何をしたのか」
194	8月28日	毎日	NPT会議再決裂 核軍縮後退させるな 被爆者ら失望と憤り
195	8月29日	長崎	戦争体験の継承 「過剰同情社会」の中で
196	8月29日	西日本	NPT会議決裂 核軍縮の停滞は許されぬ
197	8月30日	朝日	決裂したNPT会議 傍聴したRECNAの2氏に聞く
198	8月30日	毎日	NPT再検討会議決裂 機能不全に陥った「礎石」 改革に向け再出発を
199	9月1日	長崎	ゴルバチョフ氏死去 被爆者ら「人間味あふれる人」 91年来崎 原爆犠牲者は祈り
200	9月1日	長崎NR	9月17日(土)13:30～15:30 核兵器廃絶市民講座「核兵器のない世界を目指して」開催

長崎大学核兵器廃絶研究センター年報2022

2022年度 報道記事

番号	日付	新聞	見出し
201	9月7日	読売	もう二度と一被爆77年 「あの日の前後」学んで 写真や証言 教材化に協力
202	9月8日	長崎	被爆前後の長崎 立体的に 航空写真と地図重ね 遺構CG化 長崎大教授らウェブで公開
203	9月11日	徳島新聞	核抑止依存 脱却を 徳島市で禁止条約勉強会
204	9月15日	西日本	爆心地行ったり来たり 笑顔から無表情の大国へ
205	9月19日	長崎	長大レクナ NPT2022 再検討会議報告 ■6完■
206	9月20日	長崎	放射線「人体に長期影響」 朝長さんの原爆講話始まる
207	9月21日	長崎	レクナが果たす役割は 青来さんら特別講演
208	9月22日	長崎	世界に響け「長崎の鐘」 国際平和デーで県内被爆者ら
209	9月25日	長崎	「核なき未来」オピニオン賞 長大RECNA10周年記念 最優秀に西山さん
210	9月27日	長崎	核禁会議 日本参加求め声明 条約の会・長崎 全市町長に賛同要請
211	9月27日	毎日	国際平和デー 世界の紛争皆無に 被爆者手帳友の会員ら 祈り込め「長崎の鐘」
212	9月28日	西日本	原子力規制委員会 発足10年 原発規制の独立 守れるか 再稼働へ圧力強まる中
213	9月30日	長崎	エッセー 小説のあいまに 父から譲り受けた愛車 手放す今、思い浮かぶこと
214	10月2日	長崎	窓を開いて 納得できる国葬検証に
215	10月3日	長崎	露の4州併合 核リスクは危険水域に
216	10月3日	朝日	車窓の眺め 不思議な引力 意識解き放つ たいせつなひととき
217	10月4日	長崎	ナガサキ・ユース代表団10期生 活動報告 核の脅威「現在の問題」 NPT会議を傍聴
218	10月4日	読売	核廃絶の思い 世界共有 ウクライナ侵攻 論文最優秀 米露学友の衝撃つづる 福岡出身の米大学院生
219	10月5日	長崎	ユース代表団11期生を募集 核兵器廃絶長崎連絡協議会
220	10月10日	長崎	ながさき時評 ミサイル発射 「核の非劇」の名の下に
221	10月10日	西日本	2022現場から② 核なき世界 近づくために
222	10月10日	公明新聞	爆弾投下、米国人医師は何を見たか 核時代の「良心」と「共謀」
223	10月13日	西日本	ナガサキ・ユース代表団 11期生、24日から募集 NPT準備委員会へ派遣も検討
224	10月13日	読売	ユース代表団 11期生を募集 24日から
225	10月17日	長崎	NPT決裂の底流① 受け入れられない一線 核カオスの深淵 背後に「プーチン理論」
226	10月18日	長崎	レクナなど10周年記念 核軍縮へ 被爆地、若者の役割は 29日長崎で講演会 外交官、被爆者ら討論
227	10月18日	朝日	ナガサキ・ユース11期生募集 核廃絶へ活動 来月7日必着
228	10月18日	西日本	風土の記憶を継承する現代文学の可能性 文学カフェ in 長崎で対談
229	10月18日	中国新聞	国を超えて 平和首長会議総会を前に「上」戦争の記憶「わがことに」 加盟は順調 活動に濃淡
230	10月19日	朝日	日本の現代史学ぶ 22日から市民講座
231	10月20日	西日本	ナガサキ・ユース代表団7人 NPT会議傍聴を報告 「核廃絶は必要不可欠」
232	10月20日	西日本	爆心地行ったり来たり 威嚇 「核使用」麻痺する怖さ
233	10月20日	毎日	核なき世界に挑戦
234	10月21日	朝日	核なき世界へ 長崎の役割は 29日に長崎で講演会
235	10月24日	長崎	NPT決裂の底流② 核カオスの深淵 米露の断絶 浮き彫りに 没交渉で真意読めず
236	10月27日	西日本	「私の未来に核必要ない」 RECNA10周年コンテスト 西山さんエッセー最優秀
237	10月28日	朝日	ロシアの核 戦略と能力は 侵攻後初 大規模な核戦力演習実施 「通常兵器への反撃で使用可能」戦略文書
238	10月28日	中国新聞	キューバ危機60年 長崎大・鈴木教授に聞く 核戦争回避に被爆地の声を 世界首脳らの訪問も重要
239	10月29日	朝日	中国の脅威 核でも最重視
240	10月30日	毎日	「核なき世界へ」講演会 市民外交や教育の重要性指摘

長崎大学核兵器廃絶研究センター年報2022

2022年度 報道記事

番号	日付	新聞	見出し
241	10月31日	読売	核なき世界へ現状や課題 RECNAと連絡協 10周年記念講演 長崎
242	11月1日	長崎	核なき世界へ被爆地の役割考える レクナ、核兵器廃絶長崎連絡協10周年
243	11月2日	長崎	国連委で核廃絶決議採択 日本提出 禁止条約に発言及 朝長共同代表「大変な一歩」
244	11月3日	朝日	時時刻々 福島事故の教訓 岐路 規制委「今よりはるかに厳しく」 長期運転 リスク増大 脱原発「放棄につながる」
245	11月3日	長崎	13日 長崎市で「核なき世界フォーラム」「核禁条約の会・長崎」など 高まる危機へ 被爆者ら登壇
246	11月7日	朝日	信と疑のあいだ コロナ後の世界を探る きしみ受け止める人たち やがて世の中を変える地下水脈に
247	11月10日	西日本	13日に「核なき世界フォーラム」長崎市 核廃絶の道筋考える 国際情勢、核禁条約の役割など公開討論
248	11月12日	長崎	窓を開いて 原発の新設、運転延長を懸念
249	11月15日	長崎	地域に根差す活動 意義確認 波佐見で県地域婦人団体研究大会 会員400人が意見交わす
250	11月15日	長崎	長崎で核なき世界フォーラム 被爆者来年11月にも渡米 市民や政治家と対話へ
251	11月16日	朝日	核抑止論克服へ世代超え議論 被爆者や識者・学生ら参加 長崎で核なき世界フォーラム
252	11月17日	西日本	「保有国民らに働きかけ重要」 廃絶道筋 被爆者ら討論——核なき世界フォーラム
253	11月18日	長崎	「核使用正当化されず」 ポルトガル議長 被爆者と面会 長崎
254	11月18日	朝日	核の正当化にあらがう 核といのちを考える 「絶対悪」被爆者として訴える
255	11月18日	朝日	核兵器「正当化されない」 ポルトガル議会議長、長崎に
256	11月19日	長崎	北朝鮮ICBM 迫る危険「逃げ場ない」 北海道、青森 住民ら不安
257	11月20日	長崎	行動変容 粘り強く模索を
258	11月20日	西日本	NPT決裂の底流3 核カオスの深淵 中国、変えた振る舞い
259	11月21日	長崎	ながさき時評 葉梨法相更迭 死刑の本質見つめたい
260	11月21日	長崎	核カオスの深淵 中国 核軍縮の足かせ拒否 「モラトリアム」記載巡り 日本はギリギリまで攻防
261	11月22日	毎日	「段階踏み 核廃絶を」 ポルトガル議長が来訪 死没者追悼祈念館 被爆者と懇談
262	11月24日	西日本	原発施策の見直し 識者に聞く 必要性の議論 不十分
263	11月24日	西日本	爆心地行ったり来たり 視点 非核と自ジェンダー平等
264	11月28日	長崎	エッセー あきらめと、さびしさと 壊れた腕時計
265	11月28日	中国新聞	被爆前後の長崎 3D画像で RECNA制作 HPで公開
266	11月30日	長崎	被爆体験の継承考える 長崎外大公開講座 青来有一氏ら登壇
267	12月1日	長崎	長崎大リレー講座 米露の核戦争 50億人が飢餓
268	12月3日	長崎	朝長氏ら被爆者と若者らが意見交換
269	12月5日	朝日	信と疑のあいだ コロナ後の世界を探る 墓参りの坂 廃屋と紫の花 子どもなりに感じた生と死のあわい
270	12月5日	公明新聞	廃炉とは何か 市民の目から見た問題点
271	12月6日	朝日	被爆体験者救済へ「歩み寄り」 7種類のがん 医療費助成対象に 被爆者で医師・朝長万左男さんに聞く
272	12月8日	長崎	核問題「自分事として向き合う」
273	12月8日	西日本	被爆 小説で継承する意義 長崎外大公開講座 青来さん講演「作品通じ考えるきっかけに」
274	12月8日	読売	ユース代表団8人任命 11期生「核の脅威学び発信」
275	12月15日	西日本	「証言の会」森口さん死去 「核廃絶へ使命感」 被爆語り部 平和大使引率 遺構保存 関係者ら悼む声相次ぐ
276	12月15日	西日本	ナガサキ・ユース11期生 男女8人を任命
277	12月15日	西日本	爆心地行ったり来たり 期待「核なき世界」来年こそ
278	12月15日	毎日	「長崎証言の会」森口貢さん死去 被爆体験記録に尽力 被爆者らから惜しむ声 遺志受け継ぎ活動を
279	12月17日	長崎	長崎この1年 2022〈4〉 核情勢 抑止論 越えられるか
280	12月21日	長崎	米大統領 長崎訪問案 核廃絶へ具体的道筋を 県内被爆者ら期待と注文

長崎大学核兵器廃絶研究センター年報2022

2022年度 報道記事

番号	日付	新聞	見出し
281	12月21日	西日本	「核廃絶へ音頭取って」米大統領長崎訪問検討 被爆者歓迎
282	12月21日	中國新聞	核のない世界「言明を」米大統領 長崎訪問検討 被爆者ら歓迎
283	12月23日	長崎	核の危機 揺れた1年 長崎の証言の会が年間誌 故森口事務局長の聞き取りも
284	12月23日	読売	なるほど科学&医療 高濃縮ウラン燃料撤去 核不拡散へ 米が回収強化 大学原子炉の管理 不安視
285	12月25日	長崎	核カオスの深淵 NPT決裂の底流⑤ 台湾情勢にらみ核強国へ 中国 うらいな侵攻が教訓
286	12月27日	長崎	核カオスの深淵 NPT決裂の底流⑥ 「傘国」に非保有国の圧力 拡大抑止でぶつかる思想潮流
287	12月28日	朝日	規制庁・エネ庁 事前に面談 原子力規制へ 問われる独立性
288	12月28日	読売	規制庁と経産省 水面下面談7回 原発運転延長巡り
289	12月29日	毎日	「証言2022-ナガサキ・ヒロシマの声」第36集出版 工場で被爆14歳 光景鮮明に 故森口さんが聞き取った話収録
290	12月31日	長崎	核カオスの深淵 NPT決裂の底流⑦完 土壇場の暗転 露が譲らず スラウビネン議長「体制は危険な状況」
291	1月1日	NR	平野啓一郎講演会
292	1月1日	NR	平野啓一郎講演会
293	1月1日	長崎	被爆の現在地 被爆80年へ ひばくの実相 デジタル教材化 「共感」のバトンを未来へ 証言や写真 長崎外にも
294	1月7日	日本経済	迫りくる核リスク 「核抑止」の内実を分析
295	1月9日	長崎	核カオスの深淵 背骨となった二つの概念 侵略の代償① プーチンの帝国主義戦争
296	1月9日	川北新報	政府の原発政策大転換 「事前調整」規制骨抜き
297	1月7日	長崎	被爆者の声に耳傾けて 長崎 高校生平和集会 運動の在り方など議論
298	1月14日	南日本	川内原発を考える 九電姿勢に委員ら苦言 「積極的な情報開示を」 県原子力専門委分科会 商業機密盾に非公表
299	1月16日	長崎	ながさき時評 安保3文書改定 軍事的価値の浸透ねらう
300	1月16日	朝日	信と疑のあいだ 20歳 気づけなかった未熟さ ひとりで大人になる人間はいない
301	1月18日	長崎	評論 日米一体化に潜むわな 岸田首相の訪米歴訪
302	1月18日	長崎	見方変える軍縮教育を 長崎レクナ中村准教授が講演
303	1月18日	長崎	核兵器禁止条約の会・長崎 日本の条約参加要請 米大統領長崎訪問を 発効2年前にアピール
304	1月18日	毎日	「原爆投下誤りと認めて」核禁条約の会 米大統領訪問巡り
305	1月21日	共同通信	作家 平野啓一郎さん、核廃絶訴え 長崎で記念講演会
306	1月23日	長崎	核なき世界へ長崎から発信 「被爆地歩き、想像働かせて」レクナ、核兵器廃絶長崎連絡協10周年
307	1月23日	長崎	核カオスの深淵 侵略の代償② 米の戦争 露独裁者を触発 徐々にギアを上げ世界試す
308	1月24日	西日本	「軍拡でなく軍縮努力を」核禁条約発効2年 条約の会が集会
309	1月24日	読売	遺構訪問「長崎を参考に」母国復興 被爆地に学ぶ キーウの建築研究者
310	1月25日	朝日	「平和への誓い」他薦・代筆でも 8月9日
311	1月25日	沖縄タイムズ	作家平野さん 核廃絶訴える 長崎で記念講演会
312	1月26日	西日本	「核兵器 人類に必要か」芥川賞作家平野さん 講演で強く問いかけ
313	1月26日	西日本	「平和への誓い」他薦も可能に 応募資格緩和を決める 審査会初会合 来月から公募開始
314	1月26日	西日本	爆心地行ったり来たり 反感 大統領支える国民感情
315	1月30日	長崎	エッセー 小説のあいまに 寒い家 這い上がる土の冷気
316	2月1日	NR	2月4日(土)13:30~15:00 核兵器廃絶市民講座「核兵器のない世界をめざして」開催
317	2月1日	長崎	「長崎を最後の被爆地に」G7広島での発信求める
318	2月3日	西日本	「長崎の証言の会」79冊目出版 被爆者ら6人の声つづる 事務局長19年 森口さんの「遺作」も
319	2月4日	長崎	EU駐日大使ら「長崎を見ること重要」ウクライナ危機受け被爆地訪問
320	2月6日	朝日	信と疑のあいだ コロナ後の世界を探る ブーゲンビリアの戒め 花ことばに重ねた思いこみの危うさ

<あとがき> [↑](#)

2022年2月、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻により武力紛争が勃発した。ロシアによる核兵器の使用の威嚇や攻撃の危険にさらされた原子力発電所の安全の問題は、今日誰もが被ばく者になりうるという事実を改めて強く突きつけた。国連は、「平和のための結集」決議に基づき国連総会緊急特別会合を開催し、ロシアによるウクライナへの「侵略」を「憲章第2条4項違反」として「非難」する決議（A/RES/ES-11/1）を採択した。しかしながらその後は、ロシアへの制裁やウクライナへの武器供与を行う国々、ロシアとそれを支援する国々、両者に与しない国々が、それぞれの立ち位置で行動する状況にある。継続する武力紛争により苦しむのは、一般市民である。

6月21-23日には、核兵器禁止条約第1回締約国会合がウィーンで開催され、ウィーン宣言と50の行動を示す行動計画とを採択した。宣言は、条約の目的の実現が容易ではないことを認めつつも「我々は楽観と決意を持って前に進む」とし、地球上から核兵器が完全に廃絶されるまで「休むことはない」と宣言した。「市民社会」という言葉が繰り返し書き込まれた行動計画では、一人ひとりの市民の役割に対する大きな期待が寄せられた。

8月1-26日には、第10回核不拡散条約再検討会議がニューヨークで開催された。同会議における最終文書の採択の試みは、ロシアの反対により失敗に終わった。最終文書案には、核兵器の使用による「壊滅的な人道上の結末」に対する「深い懸念」や1995年の「核兵器廃絶の明確な約束」を含む核軍縮へ向けた過去の合意の履行、核兵器禁止条約とその第1回締約国会議に対する認識、核被害者の支援および汚染地域の環境修復への言及などが盛り込まれていた。

以上の状況は、「安全保障のための」核兵器という核抑止論の矛盾を浮き彫りにしている。核抑止は大変に危険なばかりか脆弱であり、それが破綻して核兵器が使用された場合の結末は広島と長崎の経験から明らかである。武力の強化で自らを守るとする論理は、いかなる国によるものであれ核兵器の時代—とりわけ核兵器の通常兵器化が懸念される今日—には極めて危険である。第2次世界大戦の反省に立つ国連憲章が加盟国に対し、武力による威嚇と武力の行使を禁止し、紛争の平和的解決を義務付けている事実を忘れてはならない。これは「理想」ではなく「現実」である。こうした国際社会において、核兵器は決して使用されてはならず、使用されないための唯一の保障は「廃絶」以外ないことを再度確認する必要がある。

(河合 公明)

長崎大学核兵器廃絶研究センター年報 2022

2023年9月30日発行

発行所 長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA)

〒852-8521 長崎市文教町 1-14

電話: 095-819-2164 FAX: 095-819-2165

E-Mail : recna_staff@ml.nagasaki-u.ac.jp

URL : <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>